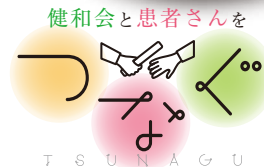
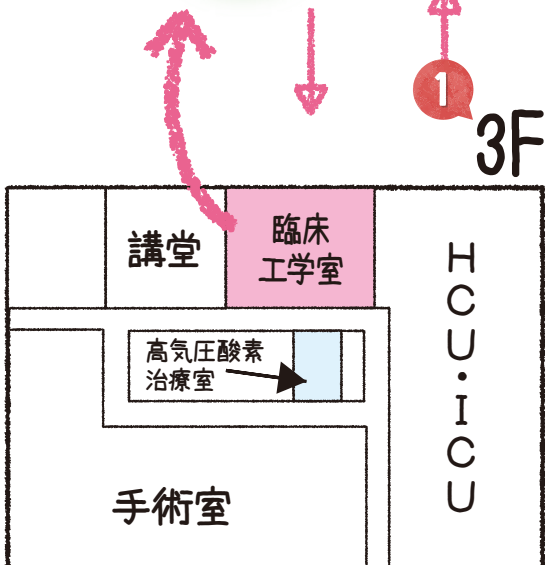
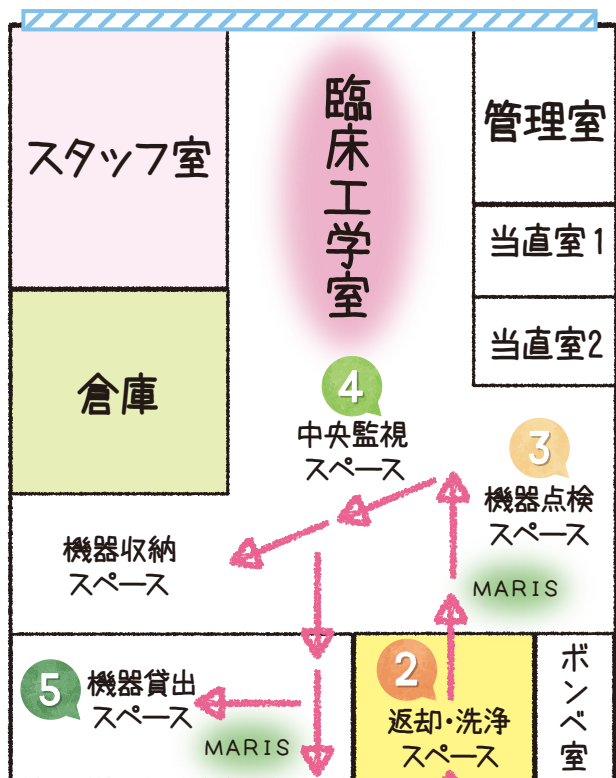


安全安心な医療を支える医療機器のスペシャリスト



臨床工学技士（ME）は、生命維持管理装置をはじめ、医療ガスなどを含めた多くの機器管理を行う専門職です。安全安心な医療機器を提供することが臨床工学業務の大きな柱となります。透析や高気圧酸素療法の場合には、直接患者さんと関わることもあります。医療機器を、正しい知識を持って安全に取り扱い、きちんと整備された機器を使用することが患者さんの安全を守るための第一の使命となります。医療機器のスペシャリストですが常に視線を患者さんに向けて業務にあたっています。今回は、新病院で益々その職能の発揮が求められる臨床工学部のご紹介です。

スタッフのスペースは明るい窓際に配置しました



- 1 機器の返却・貸出**
 機器の返却⇒洗浄⇒点検⇒貸出、保管の動線が交わらないように配慮しました。
- 2 返却・洗浄スペース**
 機器の返却は 24 時間対応に変わり、病棟スタッフの利便性が向上します。ここで機器の洗浄、清掃を行います。
- 3 機器点検スペース**
 広々としたスペースに専用の点検器具を揃え、人工呼吸器・輸液ポンプ・パルスオキシメーターなどの点検を行い、安全な医療機器を提供いたします。
- 4 中央監視スペース**
 3 階の透析装置や各 RO 装置（透析・検査・中材）の異常を ME 室の制御盤とモニターで 24 時間監視できます。夜中に異常があっても迅速に対応できるようになります。
- 5 機器貸出スペース**
 24 時間、無人による機器貸出が可能です。入り口は両手が医療機器でふさがっていても安心の自動ドアです。

MARIS V4 の画面



現在は臨床工学室内で使用しているバーコード貸出でおなじみ(?)の医療機器管理システム「MARIS」(マリス)が、電子カルテ連携になり、大きく生まれ変わる予定です。どの患者さんに、正しく点検された機器が使用されているか一目でわかるようになり、安全性が向上します。

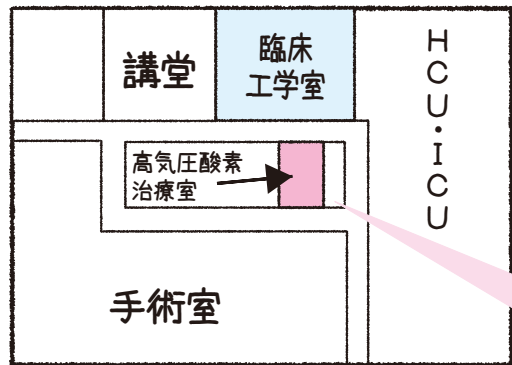
新病院における医療機器の特徴

高気圧酸素治療装置



高気圧酸素治療装置 (2019年度導入)

高気圧酸素療法は、高い気圧環境の中で、100%の酸素を吸入することにより血液中の酸素量を増加させて、手足の先端まで酸素がいきわたり、酸素不足の状態にある組織に対して改善を図るものです。幅広い疾患での治療効果が報告されており、当院では、多くの患者さんの治療に活かしていき、地域医療への貢献を目指していきます。患者さんはTVを見ながらリラックスして治療を行えます。将来の症例数増加に対応できるよう装置2台を設置できるスペースを有しています。



臨床工学室の向かい側にあります。

患者さんが安全に治療を受けられるよう、新病院ではモニタリング(みまもり)の機器をさらに充実させます。

Point 1 モニター関連

新病院では心電図モニターを安全に監視するため、各病棟や部署の天井にサブモニターの設置を予定しています。また、重要なアラームをナースコールやPHSに転送する機能の搭載を予定しております(転送時間帯やアラーム内容の設定も可能)。また、全病室でモニター管理ができるよう、電波設備の整備を行います。

Point 2 離床センサー関連

現在の離床センサーに加え、ベッド自体に離床センサーの機能を備えたベッドの導入を予定しております。現在のセンサー台数不足の解消や離床行為の早期発見が可能となります。



さらなる安心を

ひとことリレー

NO. 11

Kenwakai Hospital



臨床工学部

新大手町病院竣工に向けて、新病院にかける意気込み・各部門の特徴を紹介します！

臨床工学部(旧臨床工学センター)は約13年前、旧中材室跡に設置されました。この間、当初5人だったスタッフも現在は19人まで増加し、業務の幅も内容も大きく変化してきています。今回は開設当初から専用設計のME室が作れるため、様々な意見や工夫を取り入れていただくことができました。これからの急性期医療を支える専門職種として、スタッフ一丸となって一層の努力を行っていかうと考えております。また、臨床工学室以外でも院内様々な箇所に医療機器を安全にストレスなく使えるよう、様々な工夫を行っております。これからも各職種と連携し、日本一素敵な病院にみんなで育てていきましょう。